

共通取組 重点取組	平成 25 年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	T Tや少人数指導に取り組み、A Tなどの力を活用し、一人ひとりの基礎的・基本的な知識、技能の定着を図っています。	一人一人の児童がつまづいている箇所をつかみ、支援しながら児童が少しずつ自信をもって学習に取り組むことができるようにしている。	A B C D
2 豊かな心	違いを認め合い、互いを思いやる心を育てると共に、進んで規律ある行動をとろうとする実践的な態度を育てます。社会生活をする上で大切な規範意識を高めるために、規則正しい生活をさせています	人権週間や道徳教育を通して取り組んでいる。遅刻する人数は以前より少なくなったが、遅刻の児童は固定化し、しかも頻度の高さへの対応は課題である。	A B C D
3 健やかな体	体力向上1校実践の「朝のスポーツタイム」を通して健康・体力作りへの関心を高め、自ら体力を向上させる態度を育てます。	健康、体力づくりへの関心は高まったが、自ら体力を向上させる態度には課題が残る。	A B C D
4 特別支援教育	特別支援コーディネーターを中心に各ブロック担任達が学習の遅れが顕著な子どもや、学級(集団)不適応を起こす子ども一人ひとりに応じた支援・指導を充実させています。	ブロック対応することで、一人の児童を多面的に見取ることを心がけた。ブロック対応では、理解が深まるが他ブロックとの情報のつながりを大切にしていく。	A B C D
5 児童・生徒指導	違いを認め合い、互いを思いやる心を育てると共に、進んで規律ある行動をとろうとする実践的な態度を育てます。	規範意識への指導では、長い年月の積み重ねがみられるが、人権福祉に関する教育実践が弱い。不登校が0であることから、互いを思いやる心が育てられている学校になってきている。	A B C D
6 地域連携	懇談会やまち懇などの機会を利用して、学校の教育活動への理解を深め、地域や保護者の方と協力して教育活動に取り組んでいます。	地域との連携には全職員の協力が実っている。学校教育への理解をもっと広げる努力をしたい。	A B C D
人材育成 組織運営	特別な支援を必要とする児童についての情報交換をすとともに、対応の仕方の研修をしています。また、学校職員全体で特別な支援を必要とする児童の指導にあたっています。	職員会議だけではなく、学年研、ブロック研でも児童の情報を共有して対応している。偏った年齢構成によって抜けたキャリアステージをどのように補っていくかが、本校の課題であり	A B C D
小中一貫教育 推進ブロック 内相互評価 結果	9年間を見通した基礎学力の向上と、基礎的生活習慣を培う小中連携協議のあり方 「まち」の人々に学習や活動で関わっていただけることを増やせる基盤作りができては始めている。少人数指導やT Tなど基礎学力の向上を目指している。		
学校関係者 評価結果	学校の評価通りだと思う。 「いじめ防止法」が公開されると学校が大変になるのではないだろうか、という心配の声が上がった。		
評価結果に対する 学校の見解	これからも子どもたちのために取り組みを強化していきたい。地域の方々の協力も引き続きお願いしたい。		

学校経営 中期目標 達成状況	「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3観点とも自己評価がBなので来年度も引き続き取り組んでいきたい。具体的にどんなことに取り組んでいくかをもう一度考えていく必要を感じる。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成 26 年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	T Tや少人数指導に取り組み、A Tなどの力を活用し、一人ひとりの基礎的・基本的な知識、技能の定着を図っています。	児童同士の支え合う関係づくりを通して、児童は「分かる」「できる」という思いをもって前向きに授業に参加し、課題解決に臨んでいる。	A B C D
2 豊かな心	違いを認め合い、互いを思いやる心を育てると共に、進んで規律ある行動をとろうとする実践的な態度を育てます。社会生活をする上で大切な規範意識を高めるために、規則正しい生活をさせています。	担任一人ひとりが、児童の人格を尊重し、一人ひとりに対して大切にかかわる実践をすることで、児童が互いを大切にできる風土が育まれてきている。学校が楽しいという児童の意識が、規範意識の醸成を支えている。	A B C D
3 健やかな体	体力向上1校実践の「朝のスポーツタイム」を通して健康・体力作りへの関心を高め、自ら体力を向上させる態度を育てます。	明確な目標に向かって魅力的な内容を吟味しながら実践を推進してきた。今後は、健康の維持・増進への計画的な実践が求められる。	A B C D
4 特別支援教育	特別支援コーディネーターを中心に各ブロック担任たちが学習の遅れが顕著な子どもや、学級(集団)不適応を起こす子ども一人ひとりに応じた支援・指導を充実させています。	ブロック研究会では話題の中心に児童を据え、実態把握と対応の充実を図った。情報シートの作成を進め、6年間の継続的な支援を進められるように推進している。外部機関との連携を一層促進していきたい。	A B C D
5 児童・生徒指導	違いを認め合い、互いを思いやる心を育てると共に、進んで規律ある行動をとろうとする実践的な態度を育てます。	学級担任が率先して「認める」「思いやる」の実践を行うことで、児童にもそのよさや大切さが伝わってきている。他を思いやる心が規範を大切にしようとする心情を育てている。	A B C D
6 地域連携	懇談会やまち懇などの機会を利用して、学校の教育活動への理解を深め、地域や保護者の方と協力して教育活動に取り組んでいます。	地域行事への職員参加など、進んで地域とのつながりに努めている。保護者の情報発信への評価も高いが、今後は学校と家庭との協働的な活動に踏み込みたい。	A B C D
人材育成 組織運営	特別な支援を必要とする児童についての情報交換をすとともに、対応の仕方の研修をしています。また、学校職員全体で特別な支援を必要とする児童の指導にあたっています。	特別支援コーディネーターと児童支援専任教諭が中心となり、日常的に情報を収集し、情報の共有に努めている。人材育成と組織運営については、具体的な手立てを講じて推進していきたい。	A B C D
小中一貫教育 推進ブロック 内相互評価 結果	「9年間を見通した基礎学力の向上と、基礎的生活習慣を培う小中連携協議のあり方」をテーマに取り組み、児童の学びへの前向きな姿勢を育てる実践が効果をあげてきた。「分かる」「できる」授業と、児童同士の支え合う関係づくりが、児童の落ち着いた学習と生活を創り出している。		
学校関係者 評価結果	学習支援に参加したり、学校行事を参観したりするたびに児童の成長を感じる。学習発表会では、異学年の発表に対する感想をたくさんの児童が述べ、認め合う雰囲気を感じた。教員の児童へのかかわり方が丁寧になり、児童も安心して生活しているようだ。		
評価結果に対する 学校の見解	研究の方向に自信をもつことができた。示された課題について検討し、児童の育ちを中心に据えた具体的な改善を施していきたい。		

学校経営 中期目標 達成状況	小規模校としての特徴を生かした全校たてわり活動や授業での支え合う関係づくりなどの実践が巧く絡まり効果をあげてきた。また、児童にとって「楽しく」「安心できる」学校づくりも進んでいる。地域との協働の具体化を探りながら、教育力の向上を目指していきたい。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成 27 年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	ペアやグループでの学習形態での児童同士の支え合う関係を礎に、だれもが夢中になって取り組む学習づくりを通して、粘り強く最後までやり遂げる力を育てます。	「ペアやグループ」といった学習形態を通して、児童同士の聴き合う関係や支え合う関係が築かれ、その関係を礎に児童は前向きに授業に参加し問題解決に臨んでいる。	A B C D
2 豊かな心	たてわり活動や宿泊体験活動などの他者とのかかわりを通して、違いを認め、互いを思いやる心を育てます。	たてわり清掃、たてわり活動、宿泊体験活動などの他者とのかかわりを通して、基本的自尊感情や社会的自尊感情が育まれ、規範意識の醸成を支えている。	A B C D
3 健やかな体	「朝のスポーツタイム」の取組、食育や「いのち」の教育の実践を通して、規則正しい生活を守り、食生活や運動の大切さを理解して健康でたくましい体を作ろうとする態度を育てます。	「朝のスポーツタイム」の取組、食育や「いのち」の教育の実践を通して、児童が体を動かすことを身近に感じ、体力の向上が図られている。今後も健康の維持・増進への計画的な実践を継続したい。	A B C D
4 研究・研修	カリキュラム運営、研修の創造・推進などの責任の主体は教師であるという自律の視点、授業改善を中心とした仕事観を構築する視点を掲げ、教師力の向上に努めます。	授業研究会を通して、研究主題に迫ろうと推進している。今後も学び合う職員集団づくりをさらに進め、教師力の向上に努めていきたい。	A B C D
5 児童・生徒指導	児童支援専任教諭を中心に、確かな児童理解を元にして、一人ひとりの人格を尊重して、学校として組織的に一貫した指導と対応を行います。	児童との信頼関係の構築を重視し、児童支援専任教諭を中心に、支援プランをもとに共通理解を図り、具体的な支援を図っている。	A B C D
6 特別支援教育	特別支援教育コーディネーターを中心に、児童の困り感を理解し、今ある力を伸ばす支援、周囲の理解を促す指導に努めます。	情報シートの作成と更新を進め、学級担任と児童支援専任教諭や児童支援委員会との結び付きや個別支援学級と交流級との連携を図った。外部機関との連携を一層進めたい。	A B C D
7 安全管理	地震や津波の対応訓練を通して、いざというときの行動力を児童が身に付けられるように努めます。	予告なしの対応訓練等を通して、地震や津波への対応力を高めるとともに、児童の行動力を高められるように進めている。	A B C D
人材育成 組織運営	一役1人制を導入し、教職員一人ひとりの責任ある仕事を向上させます。また、サポートグループの編成から運営力の向上を、ブロック研究会の機能向上による授業力向上を図ります。	一役一人制の理解を進め、全職員が確実に実践できるように推進していきたい。	A B C D
小中一貫教育 推進ブロック 内相互評価 結果	本ブロックのテーマ「9年間を見通した基礎学力の向上と、基礎的生活習慣を培う小中連携協議のあり方」から、だれもが安心して学べる授業のあり方を追究する共同研究を推進し、児童の学習への前向きな姿勢が育ってきている。また、児童同士の支え合う関係が育まれ、児童の落ち着いた学習と生活が認められる。		
学校関係者 評価結果	学校に来るたびに、児童が安心して学校生活を送っている様子がうかがわれる。教員が児童へ丁寧にかかわってくれていると感じる。今後も、学習支援に参加したり、学校行事を参観したりする機会を生かして、児童の成長を感じることができたらうれしい。		
評価結果に対する 学校の見解	学校として取り組んできたことが、少しずつ積み重なってきたことを感じる。今後も、児童の育ちを中心に据えた改善に取り組むたい。		

学校経営 中期目標 達成状況	日常活動としてのたてわり清掃、計画的に実施されるたてわり活動、授業での聴き合う関係づくりなどの実践が巧く絡まり効果をあげ、小規模校としての特徴を生かした「だれもが安心できる」学校づくりが進んでいる。地域との協働による教育力の向上をさらに目指したい。
----------------------	--